

令和 3 年 6 月 30 日現在

機関番号：34701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00072

研究課題名(和文)近代日本の仏教者によるアジア留学・探検に関する基礎資料の研究

研究課題名(英文) Research in basic materials on study and exploration in Asia by modern Japanese Buddhists

研究代表者

奥山 直司 (Okuyama, Naoji)

高野山大学・文学部・教授(移行)

研究者番号：50177193

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代日本の仏教者によるアジア留学・探検に関する資料で、日本各地に残され、いまだ調査が十分になされていないものを研究対象とした。これらの資料は、A) セイロン・インド留学関係とB) チベット探検関係の2グループに分けられる。本研究では、それぞれに属する資料群に対して調査、撮影、デジタル化、整理、分析を行い、それによって得られた研究成果を順次公表した。これによって初めてその内容が明らかになった資料として、田嶋隆純、河口慧海、東温讓の各関係資料と能海寛関係資料の一部がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義として、近代の日本仏教徒によるアジア各地への進出の動きを研究するための基礎資料を開拓したこと、また彼らが日本に請来した資料の研究上の利用に道を開いたことを挙げる事ができる。
社会的意義としては、この研究が明らかにした近代日本とアジアの他の諸地域との宗教を介した交流が、今後の日本と他のアジア諸国との関係を考える上で、一つの指針となり得ることを挙げる事ができる。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on materials relating to the study and exploration of Asia by modern Japanese Buddhists, which have survived in various parts of Japan but have not yet been fully investigated. These materials can be divided into two groups: A) those relating to study in Ceylon and India, and B) those relating to exploration in Tibet. We have surveyed, photographed, digitized, organized, analyzed and gradually published the results of our research on the materials belonging to each group. The main materials that have been revealed for the first time through this research are the materials related to Tajima Ryujun, Kawaguchi Ekai and Higashi Onjo, and a part of the materials related to Nomi Yutaka.

研究分野：仏教文化史、インド・チベット仏教史

キーワード：近代日本仏教 アジア セイロン・インド留学 チベット探検 釈興然 東温讓 能海寛 河口慧海

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近代の日本仏教界に起こった新たな動きの一つに仏教者の海外進出がある。中でも西洋への調査団・留学生の派遣と並んで顕著なのが、セイロン(現スリランカ)・インドへの留学の動きと、それに続くチベット探検の動きである。ところが、彼らアジアに向かった留学生、探検者たちの事績の多くは早々と忘れ去られ、彼らが遺した日記、手記、請来品等の資料は、図書館・研究施設に収蔵されたいくつかのケースを除いて、出身寺院等に埋もれたままになっている。研究の基礎となるべきそうした資料に光が当てられ、彼らの思想と行動が実証的に解明されることが、この分野の研究にとって不可欠の課題となっている。

2. 研究の目的

近代日本の仏教者によるアジア、特にセイロン(現スリランカ)からヒマラヤ・チベットにかけての広大な地域への留学・探検に関する資料を、彼らが残した日記、手記、報告書、写真、請来品等の一次資料を中心に調査、撮影、デジタル化してデータベースを構築し、それに基づいてアジア留学生・探検者たちの事績の把握に努め、その思想的・文化史的意義を明らかにすること。

3. 研究の方法

日本各地に所在する関係資料を、A)セイロン・インド留学関係と B)チベット探検関係の二群に分け、それぞれに属する資料について次の四段階で研究を実施する。(1)その資料を調査し、撮影・デジタル化して記録・収集する、(2)デジタル化された資料を整理し、文献の翻刻を含む研究を行う、(3)データベースの構築を進め、順次発信と情報公開を進める、(4)他の資料と比較しつつ資料の分析を進める。

4. 研究成果

(1) セイロン・インド留学関係資料の研究成果

釈興然関係資料(横浜市三会寺所蔵):「釈雲照大和上書翰集」所収の釈雲照書簡8通を翻刻した。これに基づいて、Okuyama Naoji, “Dialogue between Southern and Northern Buddhists” (令和元年度研究成果) Okuyama Naoji, “Japanese Buddhists in the Revival Movement of the Bodh Gaya Temple after 1891: The Role of Shaku Kozen and the Shingon Sect” (令和2年度研究成果)をまとめた。

善連法彦関係資料(福井市仏照寺所蔵):善連の日記・手記の読解を進め、その成果を、Okuyama Naoji, “Japanese Buddhists in the Revival Movement of the Bodh Gaya Temple after 1891: The Role of Shaku Kozen and the Shingon Sect” (令和2年度研究成果)に取り入れた。

東温讓関係資料(宇城市円光寺所蔵):調査の上、日記、手記、ノート、書簡、書類、蔵書等約130点を撮影・デジタル化した。現在目録を作成している。

小泉了諦関係資料:調査の結果、既に滅失していることが判明した。

朝倉了昌関係資料:調査の結果、既に滅失していることが判明した。

長谷部隆諦関係資料:調査の結果、既に滅失したものが多いと考えられるが、長谷部が高野山霊宝館に寄贈したネパール絵画2幅については写真撮影を行った。

間島與喜関係資料(個人蔵):間島の親族から高野山大学図書館に寄贈された「天竺絵画」(間島が1896年にカルカッタで購入したインドの宗教画55枚)をデジタル化した。

(2) チベット探検関係資料の研究成果

能海寛関係資料(浜田市浄蓮寺所蔵、浜田市金城歴史民俗資料館寄託):約2800点の資料の中から、チベット語文献69点と仏像・仏具等32点を調査し、撮影・デジタル化し、目録を作成した。これに基づいて、奥山直司「能海寛によるチベット語經典の蒐集と日本への送付について」(令和元年度研究成果)を発表した。

田嶋隆純関係資料(個人蔵):調査の結果、5包32点のチベット語仏典を確認し、糸で縫い付けてあるため開くことができない葉を除くすべての葉を撮影・デジタル化し、目録を作成した。

河口慧海関係資料(個人蔵):本資料は、河口慧海の親族が所蔵してきたチベット語文献、慧海の日記、手記、ノート類、原稿を始めとする資料約750点からなる。本資料は当初は研究対象

に入っていなかったが、本研究を進める中で所蔵者の理解が得られ、調査・研究ができるようになった。これを整理すると共に資料 39 点をデジタル化した。これに基づいて、『河口慧海自伝』（稿本、500 字詰原稿用紙 656 枚）の翻刻を進めると共に、その概要と特色を奥山直司「『河口慧海自伝』について」（令和 2 年度の研究成果）にまとめた。なお本資料は現在、堺市博物館預かりとなっており、現在、同館と連携して、全体にわたる調査・研究を進めている。

以上の関係資料のうち、まとまった分量があるのは、(1)の 東温譲、(2)の 能海寛、田嶋隆純、河口慧海のそれである。これらのうち東、田嶋、河口の各関係資料の全体と能海関係資料の一部は、本研究を通じて初めてその内容が明らかとなった。本研究の顕著な成果の一つと言える。

(3) 関連の研究成果

研究期間中、研究代表者・分担者それぞれに、本研究に関連する研究成果があった。その主なものを挙げる。

明治のインド留学生大宮孝潤の研究：奥山直司「大宮孝潤のインド」（平成 30 年度研究成果）。

ボン教の研究：Shin' ichiro MIYAKE, "A Brief Study on the Bon-po Sutra"（令和元年度研究成果）三宅伸一郎「『仏』の教えとしてのボン教」（『チベットの歴史と社会』上、令和 2 年度研究成果）。

インド・チベット仏教の研究：菊谷竜太「インド密教における『完全なる悲愍』（平成 30 年度研究成果）Kikuya Ryuta, "Usō (有相) to Musō (無相) : Sign (nimitta) and Signlessness (amimitta)"（令和 2 年度研究成果）等。

日本人によるチベット探検の研究：Komoto Yasuko, "Japanese Visitors to Tibet in the Early 20th Century and Their Impact on Tibetan Military"（令和元年度研究成果）。

能海寛の研究：奥山直司「『能海寛を学ぶ』から『能海寛に学ぶ』へ」（平成 30 年度研究成果）高本康子「『能海』召喚 近現代日本と『大陸』」（同）同「『世界に於ける仏教徒』へ 明治仏教が辿った『チベット』への道」（令和元年度研究成果）。

大谷光瑞の研究：高本康子「大谷光瑞と『喇嘛教』 近代日本仏教と異文化」（『仏教と日本』、令和 2 年度研究成果）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 奥山直司	4. 巻 59
2. 論文標題 『河口慧海自伝』について 新出資料紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 密教学会報	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okuyama Naoji	4. 巻 7/8
2. 論文標題 Dialogue between Southern and Northern Buddhists: Exchange between Japanese Buddhism and Sri Lankan Buddhism which began in the late 19th century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal for the Study of Chan Buddhism and Civilization	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin' ichiro MIYAKE	4. 巻 3-1
2. 論文標題 A Brief Study on the Bon-po Sutra, g.Yung drung tshe dpag tu med pa zhes bya ba theg pa chen po' i mdo	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Tibetan and Himalayan Studies	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikuya Ryuta	4. 巻 別冊
2. 論文標題 Uso (有相) to Muso (無相): Sign (nimitta) and Signlessness (animitta)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高野山大学密教文化研究紀要	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊谷 竜太	4. 巻 18
2. 論文標題 疫病とブツダ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白眉だより	6. 最初と最後の頁 17-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高本 康子	4. 巻 85
2. 論文標題 大谷光瑞と「喇嘛教」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本佛教学会年報	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Komoto Yasuko	4. 巻 53
2. 論文標題 Japanese Visitors to Tibet in the Early 20th Century and Their Impact on Tibetan Military	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revue d'Etude Tibetaines	6. 最初と最後の頁 341-364
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山 直司	4. 巻 53
2. 論文標題 「能海寛を学ぶ」から「能海寛に学ぶ」へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 (東洋大学) アジア文化研究所研究年報	6. 最初と最後の頁 184-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高本康子	4. 巻 24
2. 論文標題 「能海」召喚 近現代日本と「大陸」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 石峰	6. 最初と最後の頁 36-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Okuyama Naoji
2. 発表標題 Dialogue between Southern and Northern Buddhists: Exchange between Japanese Buddhism and Sri Lankan Buddhism which began in the late 19th century
3. 学会等名 International Forum on Buddhism and the Silk Route, Center for the Study of Chan Buddhism and Civilization, The Chinese University of Hong Kong (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 インド密教における注釈文献の伝承について 『四百五十頌』を中心に
3. 学会等名 密教研究会令和元年度学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kikuya Ryuta
2. 発表標題 Light of the World, The Transmission of Guhyasamajamandalavidhi/ Lokalokakarika-mandalopayika/Sardhatrishatika from Jnanapada and Dipankarabhadra to Abhayakaragupta via Ratnakarashanti
3. 学会等名 Colloquium of Department of Indian and Tibetan Studies, Universitaet Hamburg, Asien-Afrika-Institut
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 インド密教における曼荼羅儀軌と注釈文献
3. 学会等名 インド思想史学会第26回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kikuya Ryuta
2. 発表標題 The lost collection of Vajravali 26 mandala painting sets
3. 学会等名 Workshop and Symposium at Hamburg University, Toward a Construction of an International Network of Sanskrit Manuscript Study
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 ヴァイシャーリー疫病消除説話と密教聖典
3. 学会等名 新・ブラフマニズムとヒンドウイズム第3回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 ヴァジュラーヴァリー曼荼羅集について
3. 学会等名 日本チベット学会第68回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 疫病とブッダーインド仏教における防護聖典と呪文効用定型句
3. 学会等名 上廣倫理財団寄付研究部門2020年度研究報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kikuya Ryuta
2. 発表標題 Scripture and Commentary: The Transmission of Mahamantranudharini in Indian Tantric Buddhism
3. 学会等名 Studies on Buddhist Monastic Culture (マルティン・ルター大学共催による日独連携国際シンポジウム)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高本 康子
2. 発表標題 大谷光瑞と「喇嘛教」
3. 学会等名 日本佛教学会2019年度学术大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥山直司
2. 発表標題 高野山大秦景教流行中国碑の由来と特徴
3. 学会等名 唐長安1400年国際學術検討会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥山直司
2. 発表標題 以密教為中心的日中文化交流 回顧与展望
3. 学会等名 中国宗教文化高層論壇（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shin' ichiro MIYAKE
2. 発表標題 A Brief Study on the Bon-po Sutra, g.Yung drung tshe dpag tu med pa zhes bya ba theg pa chen po ' i mdo
3. 学会等名 The 2nd International Symposium on Tibetan and Himalayan Studies（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 インド密教における術語の収集にあたって アバヤーカラグプタの『アームナーヤマンジャリー』とプトウンの『サンブタ広注』について
3. 学会等名 平成30年度パウツダコーシャ第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊谷竜太
2. 発表標題 インド密教における「完全なる悲愍」
3. 学会等名 上智大学イスラーム研究センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊谷 竜太
2. 発表標題 インド密教における灌頂次第とタントラ階梯
3. 学会等名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Komoto Yasuko
2. 発表標題 Japanese Travelers to Tibet and Tibetan Military Yasujiro Yajima
3. 学会等名 Military Culture in Tibet. Wolfson College, Oxford (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高本 康子
2. 発表標題 戦時下日本における「宗教」イメージ
3. 学会等名 平成30年度密教研究会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高本 康子
2. 発表標題 冒険と明治日本
3. 学会等名 龍谷大学宗教部講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 能海寛研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 能海寛研究会	5. 総ページ数 294
3. 書名 能海寛研究会25周年記念論集（奥山直司「能海寛によるチベット語經典の蒐集と日本への送付について」）	

1. 著者名 Mukhopadhyaya, Ranjana and Togawa Masahiko (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 未定
3. 書名 Buddhist Encounters and Exchanges between India and Japan (Okuyama Naoji: Japanese Buddhists in the Revival Movement of the Bodh Gaya Temple after 1891: The Role of Shaku Kozen and the Shigon Sect)	

1. 著者名 能海寛研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 能海寛研究会	5. 総ページ数 294
3. 書名 能海寛研究会25周年記念論集（高本康子「『世界に於ける仏教徒』へ 明治仏教が迎った「チベット」への道」）	

1. 著者名 悉曇蔵研究会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 U S S 出版	5. 総ページ数 365
3. 書名 増補改訂普及版梵字悉曇教本 上巻・入門編（奥山直司「大宮孝潤のインド」、「日本仏教界の恩人・間島與喜」）	

1. 著者名 堺市博物館編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 堺市博物館	5. 総ページ数 79
3. 書名 堺・経典をめぐる文化史（奥山直司「特別寄稿 明治の三蔵法師・河口慧海が求めたもの」）	

1. 著者名 sTon skor Tshe ring thar & Shar gzhon Tshe ring zla ba (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 青海民族出版社	5. 総ページ数 414
3. 書名 青蔵高原の古代文明：北京首届国際象雄文化学術検討会論文集（三宅伸一郎: Nyi hong gi bon po zhib 'jug thog ma nas 'phros pa'i gtam）	

1. 著者名 岩尾一史・池田巧編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 チベットの歴史と社会 上 歴史篇・宗教篇（三宅伸一郎「『仏』の教えとしてのボン教」）	

1. 著者名 日本佛教学会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 432
3. 書名 仏教と日本（高本康子「大谷光瑞と『喇嘛教』 近代日本仏教と異文化」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三宅 伸一郎 (Miyake Shin'ichiro) (00367921)	大谷大学・文学部・教授 (34301)	
研究分担者	菊谷 竜太 (Kikuya Ryuta) (50526671)	京都大学・白眉センター・特定准教授 (14301)	
研究分担者	高本 康子 (Komoto Yasuko) (90431543)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・地域比較共同研究員 (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関